
ドラえもん のび太のバイオハザード THE CROSS

矢部野 和麻呂

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ドラえもん のび太のバイオハザード THE CROSS

【Nコード】

N1404S

【作者名】

矢部野 和麻呂

【あらすじ】

ドラえもんのび太のbiohazardのオリジナル主人公小説！舞台、すすき原でしばらく前から妙な事件が起こっていた

そしてその事件は日本を揺るがす大きな事件に！

十良いタイミングで原作キャラも出るよ！

（現在レオン、クレア登場）

プロローグ（前書き）

ニコニコで見かけたある動画を見て作りたくなりました

しばらくはここに力を入れます

すみません

プロローグ

朝おきて学校に行き

帰ってまた次の日起きたら・・・、私達の住む町は地獄になっていました・・・

??
SIDE

ーすすき原高校ー

コーン、キーン、カーン、キーン

いつも通り不協和音なチャイムがなり、帰りの時間になった

「おおーい、進也^{しんや}、一緒に帰ろうぜ」

「はいはい、少し待っていてください」

おっと、この私が誰か行ってませんでしたね

伊藤 進也、ただの高校生です

そしてこの私の親友 佐藤 宗谷です

さて、帰りの準備が整いました

「さてと、行きましょうか」

「おう、そーいやさ、朝に妙な人達を見かけたんだけどさ」

「妙な人達？」

「ああ、顔色が良くない、なんか変色してて、おぼつかない足取りだった」

「ふうむ、それってゾンビの類じゃないですか？」

「まさか！、そんなのいるわけないじゃん、お前ならよくわかって
いるだろ？」

・ 「ま、科学的に、または常識的に考えたら確かにありえませんが・

実際に起きない可能性も否定できませんよ」

「ハハッ！、そんな事が起きたら俺が金属バットで無双してやるよ」

「貴方は運動神経が良い方ですしね、でも頭良くない人・・・」

「言うなバカヤロー！！」

「おっとすみません、ではこれで」

「おう、じゃあな」

帰り道の曲がり角で私達は別々の道に行く

さて、我が家だ・・・

今日は何もなかった・・・、そう；今日；は・・・

オリキャラ設定

伊藤 いとう
進也 しんや

職業 高校二年生

身長 172CM

体重 58kg

性格 本作の主人公

基本誰にでも敬語を使い、頭も凄く良い
足だけが、異様に早い

それ以外は、一般人よりも少し低い
冷静沈着で、物事をすぐ判断する事が出来る
ただ、何処か大人びていて

子どもの様な雰囲気を出していない
顔はかなりのイケメンでモテるが
誘いは全て断っている

理由は、彼の父親にあるのだが・・・
多分彼の名前でピンと来る人もある程度いるだろう
ヒントは、ヤンデレ・・・

佐藤^{さとう} 宗谷^{そうや}

身長 180 cm

体重 65 kg

性格 本作のサブ主人公

主人公の唯一の親友

熱い熱血野郎で、燃えてる

その性格のせいでしばしば無茶な行動を起こす

涙もろい性格で悲しいことなどがあつたらすぐ泣く

ジャイアンとは仲が良い

因みに、主人公との出会いは、追々話す予定

部では、バスケット部に所属

オリキャラ設定（後書き）

4月9日、名前変更

第一話 死人と外国人警官と小学校（前書き）

多分題名で分かる人もいるよね・・・

オーズを基にしました

だって結構シンプルだし・・・

第一話 死人と外国人警官と小学校

進也SIDE

帰ったらすぐに寝た

何時もかなり勉強してるから結構疲れるんですよ

ぶっちゃけたりしますと、大学とかで習いそうなのもありました・
・

一体何なんだこの学校は・・・・

とにかく私はベッドに転がってすぐねました

夕食?、カップラーメンで済みましたよ

風呂?、水だけです

歯磨き?、しました

ちゃんと全部済ませましたよ

ふう、さて、寝ますか・・・・

明日は久しぶりの休日だな・・・・この学校

夏休みとかそういうのがないんですよ・・・・

ー次の日ー

うーん、朝・・・、ナニコレ・・・

窓を見てみたんですけど・・・

何か得体の知れないヒト達がいるんですけど・・・

いや、本当になんですかコレ・・・

窓叩いて涎出しながら物凄くこっち見てるんですけど・・・

・・・あ！、宗谷君が言ってた人達か・・・

ドカアアアアアン！！

・・・、後ろにあるガソリンスタンドが爆発しました・・・

バンバンと銃を撃つ音が聞こえます

「ギャアアアアアア！！！！！」

ひ、悲鳴が聞こえてきましたよ！

とうかこの人達ゲームとかで出てくるゾンビそっくりじゃないですか！

何故・・・？

とりあえず・・・、逃げましょう！

裏口の鍵・・・、あった

さっさと逃げよう・・・、どこに？

まあ、こういう場合行きあたりバツタリっていう・・・、ないよね

とにかく外に出るか

バリーイイイイン

窓が破られた、さっさと行かないと

私は裏口を開けた

「！」

そこには金髪の外国人の警官の警官が銃を持ちこちらに振り向いた

「う、撃たないでください！」

「伏せろ！」

言われた通りに私は伏せる

バン！　バン！

銃の二連射する音が聞こえる

「立ちあがれるか？」

警官が手を差し出す

「は、はい」

「よし、とにかく一緒に来い」

「ど、どこに行くんですか？」

「避難場所といったら大体わかるだろ」

（避難場所・・・あ、学校か）

「とにかくこい」

「わ、分かりました」

外国人警官が走り私はついて行く

ゾンビ達が出てきたりしたけど頑張って避け学校に私達は着いた

そして昇降口にいる

「ふう、ここはあまりゾンビがないな」

「ええ、ところでお名前は？」

「そういえば言っていなかったな、レオン・S・ケネディだ」

「伊藤 進也です」

「さて、伊藤と言ったな・・・」

「はい、何でしょうか？」

「これを渡しておく」

レオンさんが私に銃を差し出す

「え、これって・・・」

「ここに来た時に警官の死体から取ってきた、この状況で自分の命は自分で守れ」

「わ、分かりました」

私はレオンさんが差し出してきた銃をもらう

「さて、学校に来たは良いがどうする？」

「うーん、一回保健室に行きましょう、そこに傷薬とかもある筈です」

「そうだな、行くか」

（宗谷君は無事かな・・・）

親友を心配する進だった

レオンさんが保健室のドアノブに手をかける

そして開ける、中には・・・

第二話 保健室での再会!! そして現状報告

中には・・・

「だ、誰だ!？」

生存者達がいた、そして今の声は進が良く知っている声だった

「そ、宗谷君!」

「進也!」

それは親友宗谷の声だった

「無事だったのかおまえ」

「ええ、あの方に助けてもらいまして」

「?」

宗谷はレオンの方に向く

「レオン・S・ケネディだ、よろしく」

「あ、佐藤 宗谷です」

進也は周りを見渡す

黄色い服を着たメガネの男の子

オレンジ色の服を着た大きな男の子

ピンク色の服を着た女の子

青い服を着た狐のような顔の男の子

白い服を着た男の子

金髪でガングロの男の人

黒い服を着た男の人

赤い帽子を被った男の子

町内会長の金田さん

赤い服を着た女性が一人、外国人で同じ色の服を着た女性がいた

進は一番近くにいるピンク色の服を着た女の子に声をかける

「あの・・・、伊藤 進也と言います

貴方は？」

「あ、源 しずかです、よろしくおねがいします、伊藤さん」

「よろしくおねがいします、源さん」

そう言って白い服を着た男の子に近寄る

「伊藤 進也と言います、貴方は？」

「あ、出来杉 英才と言います」

「よろしくおねがいします、出来杉君」

「よ、よろしくおねがいします、伊藤さん」

そしてオレンジ色の服を着た男の子に近寄る

「伊藤 進也と言います、貴方は？」

「剛田 たけしって言います、ジャイアンと呼んでください」

「よろしくおねがいします、ジャイアン君」

「よろしくおねがいします、伊藤さん」

そして青い服を着た男の子に近寄る

「伊藤 進也と言います、貴方は？」

「骨川 スネ夫って言います、よろしくおねがいします」

「よろしくおねがいします」

そして赤い服を着た日本人女性に近寄る

「伊藤 進也と言います、貴方は？」

「桜井 咲夜よ、よろしくね、伊藤君」

「よろしくおねがいします」

そして黒い服を着た男の人に近寄る

「伊藤 進也と言います、貴方は？」

「・・・、白峰・・・」

「よ、よろしくおねがいします」

「・・・、よろしく・・・」

（無口な人だな・・・）

そして赤い服を着た外国人の女性に近寄る

「伊藤 進也と言います、貴方は？」

「え？、ああ、私はクレア・レッドフィールドよ」

「よろしくおねがいします、クレアさん」

「よろしくね」

次に金髪の同年代位の男の人に近寄る

「伊藤 進也と言います、貴方は？」

「俺か？、俺は健治だ」

「よろしくおねがいします、健治さん」

「おう、よろしくな」

次に赤い帽子を被ってる男の子に近寄る

「伊藤 進也って言うんだけど、君は？」

「僕、太郎」

「よろしくね、太郎君」

「うん、よろしく、お兄ちゃん」

（素直で良い子だな）

次に町内会長に話しかける

「ええっと、町内会長」

「なんじゃね？、君は」

「伊藤 進也と言います」

「そうか、わしは金田じゃ、まさかこんな事態になるとはのう、いやはや世も末じゃのう・・・」

「所で後ろにある猟銃は・・・」

「これかね？、昔猟をやっていた時期があつてのう、持ってきたのじゃ」

「そうなんですか」

最後に黄色い服を着た男の子に近寄る

「伊藤 進也と言います、と言います、君は？」

「僕？、ぼくは野比 のび太です」

「よろしくおねがいします」

「よろしくおねがいします」

一通りの人との挨拶が終わりジャイアンがみんなに聞く

「みんな聞いてくれ、今はここは安全だけど何時ここもやばくなるか分からない」

だからみんなにどうしたいか聞きたい」

「はい！」

スネ夫が手を上げる

「とりあえず落ち着くまで裏山に隠れているというのはどうだい！？」

「なるほど、裏山なら人も少ないですしゾンビも来る可能性が低いですね」

「でも・・・」

出来杉が反論する

「裏山に隠れるのは良いとして、食糧とかはどうするんだい？」

「近くのコンビニから持ってくれば良いんじゃないか？店員なんていないだろうし」

「ですがそれって結局町に行く事になるじゃないですか」

「あ・・・」

進也の一言で静まり返る

そこで宗谷が

「でも、今はそれくらいしか手はないな」

「そうね、少なくとも保健室で立て籠っているよりは良いわ」

「ウウウウウ」

ゾンビの唸り声が聞こえてくる

「・・・、気のせいかなゾンビが集まってきているような気がする」

「とりあえず今は骨川君の案が良いでしょう」

「その前に一つ聞かせてくれ」

今まで黙っていたレオンが立ちあがる

「この中で武器を持っていないのは？」

出来杉、スネ夫、しずか、太郎、健治、咲夜、宗谷が手を上げる

「こんなにいるのか・・・、武器調達もしてきたほうがいいな」

「確かに・・・、食糧と一緒に武器も集めましょう」

レオンの案にジャイアンが肯定する

「とりあえず2，3人ひと組で行きましょう」

進也が案を出す

「そうだな、後連絡する手段も欲しいな」

「じゃあ携帯電話はどう？、職員室にあるかもしれない」

ジャイアンの相談にのび太が答える

「なるほど、携帯か、のび太の癖に考えたじゃないか」

「さて、じゃあチームを考えよう、俺はスネ夫と行くぜ」

「な、なんでばくまで!？」

「言い出しっぺはお前じゃねえか、グダグダ言ってねえでこい」

「じゃあ俺も行こう、町は学校よりも危ない」

レオンもジャイアンについて行くようだ

「じゃあせつかくだから俺は出来杉君と行くぜ」

「よろしくおねがいします、宗谷さん」

宗谷は出来杉と一緒に行くようだ

「じゃあのび太君、僕と行きましょう」

「分かりました」

進也はのび太と一緒に行くようだ

「金田さんはどうするんですか？」

「わしは動かんよ、今の所ここが安全じゃからのう、

違う安全な場所が確保できるまでここはわしが守っていよう」

「ありがとうございます」

「所で、太郎君はどうするんだい？」

出来杉が思ったことを言う

「ぼく、健治兄ちゃんに行く!」

「はあ!?!、何でおれと」

「まあ、ここにいるよりは行動した方が良いでしょうし、一緒に行ってあげたらどうですか」

「チッ、しゃあねえな、わあったよ」

「私も一緒に行くわ」

咲夜も健治達と一緒に行くようだ

「しずかちゃんは誰と行くの?」

「私はクレアさんに行くわ」

「よろしくね、しずかちゃん」

「よろしくおねがいします」

しずかはクレアと行くようだ

「よし、そうと決まれば行こうぜ!」

第二話 保健室での再会!! **そして現状報告（後書き）**

白峰さんは無口設定にしました

そしてクレアさん登場

第三話トイレでのちょっとしたバトル！ レオンと進也の連携（前書き）

遅くなりました

原作ではのび太は戦いますが

今作では題名の二人に活躍してもらいます

第三話トイレでのちょっとしたバトル！ レオンと進也の連携

「あー」

のび太が手を挙げる

「なんだのび太？」

「ちょっと、トイレに行ってきていいかな？」

その発言にみんなは呆れた顔をする

「ぼくも！」

太郎も声を上げる

「・・・のび太らしいやさっさと行って来い

「はあ！？、そこまでガキのお守りするなんて俺は嫌だぜ」

健治はついて行く気はないようだ

「・・・、仕方ない、俺が行こう」

「私も付き添いで行きましょう」

レオンと進也が行くという

「ありがとうございます」

「さっさと澄まして行きましょう」

4人は保健室から出ていく

＊

トイレ男

「まだですかあ？」

「うーん、もうちょっと」

「ぼくも」

しばらく出てくる気配は見せていない

「・・・」

ガチャツと音がする

「！、・・・二人ともそこにいろ」

「「え？」」

「・・・きたようですね」

「「「「「ああー」」」」」」

「「！」」

「進也、銃の使い方はさっき教えたな？」

「はい、大丈夫です」

「なら行くぞ・・・3、2、1、GO！」

レオンの合図と共に二人はゾンビ達に突っ込んでゆく

進也二体のゾンビの足を撃ち、ひるませる

「ハァ！！」

そしてレオンが二体同時に回し蹴りをする

「「ヴッ！」」

ゾンビ達は軽く悲鳴の様な物を上げるが、頭が腐っていて柔らかい
せいか

首が吹き飛ぶ

しかしその隙を狙いゾンビ達はレオンに掴みかかる

「グッ！」

しかし

「レオンさん！」

バンバンと、2連射する音が聞こえる

その二つの弾がどっちもゾンビ達の内二体の頭を貫いていた

倒れる際に二匹のゾンビがひるむ

（キラン） 「いまだ！」

そのひるんだゾンビにレオンはサバイバルナイフを取り出し、脳天に突き刺す

もう一匹のゾンビも進也が止めを刺す・・・、胴に弾を当て続け

「ふう、終わりましたね」

「ああ、結構時間がかかったな」

「うー」

「「！」」

進也の真横で死んでいたゾンビが進也に掴みかかるが

バン！

銃の音が聞こえその弾はゾンビの頭を貫く

打ったのは・・・

「「のび太（くん）！」」

「はあはあ、良かったあ・・・」

撃ったのはなんと のび太 だったのだ

「助かりましたよ のび太 君」

「いえいえ、こっちもさっきまで助けられましたから」

「太郎、もう出てもいいぞ」

ドアをコンコンとレオンが叩くと太郎が出てくる

「あ、ありがとう」

「さ、保健室に戻りましょう」

そう進也が言い、3人は頷く

第三話トイレでのちょっとしたバトル！ レオンと進也の連携（後書き）

短い・・・、物凄く短い・・・

次回はもうちょつとがんばろうと思います

なにせ急速で書いたものなので

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1404s/>

ドラえもん のび太のバイオハザード THE CROSS

2011年10月7日01時19分発行